

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	良く なっている	一般小売店 〔酒〕（経営者）	単価の動き	・主力商品の1つであるウイスキーが40～50%の大幅値上げをしたにもかかわらず、販売量が落ちておらず、それどころか増加傾向にある。また、シャンパンなどの高額商材についても売行きが好調である。
	やや良く なっている	百貨店（担当者）	来客数の動き	・来客数が前年並みを維持し始めた。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は前年を下回っているが、商品単価、客単価とも伸びている。付加価値の高い商材の動きも良い。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・北海道新幹線開業を控えて一時的に人口が増加しており、それに伴い売上もやや良くなっている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・12月の売上は前年比109%となった。特におせち、クリスマスケーキの予約販売の売上が前年比125%と寄与した。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・来客数は前年並みであったが、カシミアコート、ブランドスーツなどの高単価商材がよく売れたこともあり、客単価が前年と比べて3000円程度上回って推移した。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車効果がみられたことで、やや良くなっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車の動きが好調であり、それにあわせて新型車以外の販売量も前年を上回って推移している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格の下落により、自動車用燃料の販売量が好調に推移している。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・歳末商戦に入ってから来客数が増加している。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べると、売上はやや良くなっているが、期待していたほどの売上がみられず、失望した月であった。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・コンサートイベントやスポーツ大会が好調要因となっている。外国人観光客の宿泊も恒常的に受注できており、高稼働となっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・11月に続き、毎日というほどではないが、売上が前年実績を上回る営業日が増え続けている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・11月と比較して、利用客数が増加しており、業績が堅調に推移している。
		通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・健全な状態ではないのかもしれないが、値引き、キャッシュバック合戦により札幌圏を中心に商戦が大きく盛り上がっている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・12月24日までの利用客数は前年比で約135%と大きく増加している。3か月前の9月の前年比は約110%であった。
		美容室（経営者）	単価の動き	・前年と比べて客単価が3%程度上昇しており、それに伴って売上も増加している。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・街なかでクリスマスソングがあまり聞こえてこないなど、少しさみしい月であった。客の様子をみても、クリスマスプレゼントの買上が前年より少なく、客単価も低い状況にある。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子は3か月前と変わらない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・12月に入って比較的暖かい日が続いていることで冬物衣料の売上が今一つ伸びていない。また、11月に発売されたプレミアム付商品券は12月及び1月限定で使用されることになるが、来街者の増減で判断すると12月に限っては効果が目立っておらず、売上アップにつながっていない。当地区のホテルの宿泊状況は好調であったが、区域内を買物する外国人観光客などの姿はほとんどみられなかった。一部の店舗では年末大売出しによる売上の増加があったが、全体的には例年とほぼ変わらない状況で推移した。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・雪が早くから降ったこともあり、ファッション関連の店舗が好調に推移するとみていたが、実際には暖冬の影響で、期待していたほど伸びなかった。プレミアム付商品券については使用率80%を超えて、客の消費意欲の刺激にかげりがみえてきた。

百貨店（売場主任）	来客数の動き	・12月はプレミアム付商品券の効果もあり、毎年行っている全市連合大売出しが好調であるものの、暖冬の影響でコートの売行きが前年の80%台にとどまった。一方、お歳暮商戦についてはほぼ前年並みであった。新たに物産催事を組み入れるなど、集客動員策を重ねているが、全体としては非常に厳しい状況であった。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数が前年比102%と回復を感じさせるが、大幅な減少がみられた11月との累計では前年比100%と横ばいであった。外国人観光客の売上が前年比135%と伸びているのに対して、地元客は微増にとどまった。また、お歳暮は前年並みの売上がキープするも、中旬までの天候の影響で、冬物のアウター、靴などの季節商材が落ち込んだままであり、日配品の回復が待たれる。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・来客数の微減が続いている。12月としては異例の暖かさから、コートや手袋、マフラーなどの防寒衣料を中心とした冬物商材の売上が減少している。
百貨店（販売促進担当）	それ以外	・暖冬の影響により、コートなどの冬物防寒衣料や雑貨が低迷している。12月下旬になり、気温の低下や降雪がみられたものの、セール待ちの時期と重なり、需要喚起とはならなかった。
スーパー（店長）	来客数の動き	・平成26年4月の消費税増税以降、衣食住部門のすべてで来客数の前年割れが続いている。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・売上全体の前年比の数字は堅調であるが、商品単価の上昇に伴い販売量の前年割れが続いており、価格上昇に対する客の購買行動はなお厳しい状況にある。
スーパー（役員）	販売量の動き	・ここ数か月で初めて客単価が前年を下回った。12月ということもあり、客単価は11月と比べて約15%上昇しているが、前年と比べると約11%の低下となっている。ここ数か月、商品単価に大きな変化はみられないため、客1人当たりの平均買上点数が減少しているとみられる。また、12月中旬までの暖冬により、鍋用品などの季節商材の動きが悪いことも影響している。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上以上に来客数が減少している。客単価は維持されていることから、客の来店頻度の低下が影響している。特にたばこ酒の売上減少が続いており、客が消費量を抑制しているとみられる。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・前年と比べて客単価が上昇しているが、安い特価品が売れない。せっかく買うのであれば、質の良い商材や自分の満足ゆく商材を選び、無駄な出費をしないという客の傾向がうかがえる。その一方で、売掛けの回収率が前年から上昇したこと、ガソリン、灯油などの価格が前年と比べて安価で推移していることなどのプラス材料もみられた。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・12月はプレミアム付商品券の発売と全市連合大売出しの効果で好調なスタートとなり、近年にないにぎわいがみられた。
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・待望の新型車が発表され、受注もみられたが、他の車種を含めた全体の販売量が依然として伸びてこない。新車、中古車ともに改善されてこない状況にある。
自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・降雪が少ないため、冬タイヤなどの冬物商材の販売量が前年比70%と大きく落ち込んだ。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチタイムは下旬に入ってから観光客や家族連れが集中し、満席の日が続いた。ディナータイムは来客数こそ少ないが、料理単価が高かったことやアルコールの注文が多かったことから、最終的な売上は前年を10%上回った。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・12月前半は温暖な気候で客足が良かったが、客単価が全体的に上がらなかった。また、クリスマスの売上が前年を下回ったことで、全体での売上は前年をやや下回った。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・当地では10月以降、畑の冠水や早い降雪により農業被害が発生していることや一部地域の水産業が不振であったことに加えて、昨今の消費税増税報道などにより、客の消費マインド、特に観光需要が抑制されている。
旅行代理店（従業員）	それ以外	・12月の販売額は3か月前と比べて減少しているが、前年比では微増と多少はプラス要素がみられるため、全体としては変わらない。

	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数は増加していないが、客単価がやや上がっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・プレミアム付商品券などの利用が好調なことから、運送収入の前年比を押し上げている。ただし、運送回数は前年比で減少している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・売上が前年比で微増が続くなど、見込みよりも若干良かった。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ数か月の売上をみると、10月、12月は前年より5%ほど良かったが、9月、11月は前年実績を割り込んでいる状況から、景気が良くなっているとは言えない。
	美容室（経営者）	単価の動き	・前年に比べて売上が増加している。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・消費税増税から1年以上が過ぎたが、なかなか増税前の状況に戻らず、客の様子見が続いている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・観光客の減少により、飲食関係の店舗が全体的に悪かった。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・12月の売上は電話やファックスの注文が相当減ったため、前年比89%と散々であった。また、地元客からは、お歳暮の送り先を息子や娘のところだけにするといった声が多く聞かれた。そのほか、教育、医療、住民サービスが充実している隣接市に引越すため、これからなかなか来店できなくなるといった声も聞かれた。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・外国人観光客の増加が依然として続いていることもあり、12月の売上は前年比130%と3割伸びているが、今までの月に比べると伸び率がかなり低くなってきており、この2年間で最も低かった。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・12月は来客数が前年比で3%減少したのに対して、売上が前年比で8%、買上点数が前年比で10%も減少しており、商品単価が上がっているものの、客1人当たりの買上点数が減少している状況にある。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・依然として来客数の回復が鈍い。ボーナス支給日や年金支給日などの客の反応も悪く、客単価も低下傾向にある。前年と比べて公共工事が減少していることや、10月の暴風雨で漁業が被害を受けたことなどが影響している。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・クリスマスケーキなどの予約状況が悪かった。特に沿岸地域では漁の不漁により、加工場、配送業者、燃料業者などの業種にも大きな影響がみられ、消費者が買物の金額を抑えている。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・催事時期の来客数が極端に減っている。
	衣料品専門店（店員）	単価の動き	・クリスマスシーズンでプレゼント需要が高かったが、単価の高い商材が動かなかった。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・10月ごろから来客数、販売量が減少してきたが、11月からは一段と減っている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・12月は稼働日数が少ないということもあり、販売の厳しい月であるが、今年は特に販売台数や売上が悪く、景気が悪くなってきていることを感じる月であった。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・比較的暖かい日が多かった割に客足は今一つであり、客の俟約がうかがえる月であった。
	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・外国人観光客は堅調だが、国内客の予約状況があまり良くない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・12月は中旬まで雪の日が少なく、暖かかったため、タクシーの利用が前年よりも減っている。乗務員不足で車の稼働率も悪いが、1台当たりの売上も前年を下回っており、会社の売上も減少した。
	タクシー運転手	販売量の動き	・例年であれば12月は売上が伸びてくる月だが、天候が良かったため、利用客も少なかった。3か月前との比較ではほぼ同じ売上であったが、前年との比較では約5%の減少となり、やや悪くなっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・天候が良かったせいか、前年よりも売上が落ち込んでいるなど、この時期の年末需要としてはあまり芳しくなかった。

		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・今年は天候に恵まれたこともあり、フェリーの欠航日数が減少しているが、全体的な輸送量は増加していない。	
	悪くなっている	-	-	-	
企業 動向 関連 (北海道)	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・過去最高の収益にて今年を終えた客先が複数あった。	
	変わらない	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・首都圏を中心に高額商材の動きが良い。特にマンションにかかわるインテリアや家具の需要が好調である。	
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・医薬品、飲料、生乳、農産物の輸送量は順調に推移しているが、紙製品の輸送量は低迷が続いている。	
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・取引先からもこれといった大きく輸送量が増減するような話は出ておらず、3か月前と比べて状況は変わっていない。	
		金融業（企画担当）	それ以外	・観光関連業種は好調を維持している。外国人観光客は前年を大幅に上回り、札幌市内や近郊のホテル、旅館は満室の状況にある。また、こうした状況を受けて、ホテルの新増設も目立っている。また、医療福祉施設の拡充も多い。その反面、公共工事の減少により、道内経済に大きなウエイトを占める土木建設関連業種は低迷している。	
		司法書士	取引先の様子	・一見、市場が回復しているようにみえるが、底力がないようにもみえるため、全体としては以前と変わらない。	
		司法書士	取引先の様子	・不動産の売買広告をWebで流しても、アクセスは数多くあるものの、取引に関する問い合わせなどは全くみられないなど、依然として景気が回復したとの実感はない。	
		やや悪くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上について、季節要因を除くと若干減少してきている。
			建設業（従業員）	取引先の様子	・設計事務所では、改正耐震改修促進法で定められた診断結果報告の対応で忙しいものの、次年度工事発注予定建物の設計が極端に少なくなっている。
			通信業（営業担当）	取引先の様子	・需要の低減傾向を感じている取引先が増えてきている。
			その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格が変わらないにもかかわらず、人手不足のため、外注費がどんどん上がっており、原価率を押し上げている。そのしわ寄せを2次下請などが吸収する構図になってきている。
			その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	それ以外	・ここ数年沈静化していた倒産が散発している。信用情報なども例年より多く聞かれるなど、資金繰りに窮している企業が確実に増えているようだ。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上の前年割れが続いている。	
	悪くなっている	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・特に消耗品の販売量の落ち込みが激しく、3か月前に比べて約20%の減少となっている。前年と比べても約3%の減少となっている。	
雇用 関連 (北海道)	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が70か月連続で前年を上回り、月間有効求職者数が49か月連続で前年を下回った。また、新規求人は、派遣求人が前年から6.4%減少したものの、正社員求人が前年から8.8%、パート求人が前年から16.2%それぞれ増加したほか、累計でも前年から8.6%増加した。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年を11.0%上回り、2か月ぶりに増加に転じたほか、月間有効求人数も前年を6.8%上回り、4か月連続で前年を上回った。	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣の依頼と中途採用の求人依頼が増加している。依頼内容はホテルのベッドメイクといった単純作業から、経理・営業幹部、スキルの高いIT技術者など幅広いニーズが存在しており、企業の人材不足感が高い。	

	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人情数は業種、職種ともほぼ前年並みで推移した。
	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・暖冬と雪不足の影響で、冬に売れるべき商材が売れず、関連業界は大打撃である。景気の不透明感も相まって、生活関連サービスや個人消費関連業界は採用に消極的である。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年を5%下回っており、1年前から続く前年割れに歯止めがかからない。売上の上位構成業種では、医療、派遣が微減しているほか、環境衛生、小売が20~30%の大幅減となっている。運輸運送、不動産は前年の2倍以上の売上を記録したが、全体をカバーするには至らなかった。
	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・当地の求人倍率は高水準にあるが、北海道平均と比べると低く、紹介就職者数も前年を下回っている。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・9~11月の累計の新規求職者数が前年から6.1%減少しており、11月の新規求職者数に占める在職者の割合が前年を2.5%上回る25.4%となった。また、有効求人倍率は過去最高の1倍となった。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-